

平成29年度全国学校保健・安全研究大会報告

日 時 : 平成29年11月16日、17日

場 所 : 三重県総合文化センター

全大会講演

「学校事故対応に関する指針とこれからの学校安全」

東京学芸大学教育学部 教授 渡邊 正樹 先生

学校における危機管理とは、危険をいち早く発見して事件・事故の発生を未然に防ぎ、児童生徒らはもちろん、教職員自身の安全も確保すること、万が一、事件・事故が発生した場合には、適切かつ迅速に対処を行い、被害を最小限にとどめ、事後措置も怠ることが無いように対応することが大切である。危機管理において、事故等を防止するために、すべての危険を取り除くこと（ゼロリスク）は不可能であり、特に死亡や重大な障害につながる危険を見つけ、それらを確実に取り除くことが必要である。学校安全の取り組みの視点として、過去の事件・事故・災害事例を独立行政法人日本スポーツ振興センターのデータベースを利用して自校でも発生する可能性があることを前提として取り上げることが重要である。そして、このような情報を教職員間で共有し、リスクの完全除去よりも、リスクを軽減することを目指すことである。

第6課題 学校環境衛生

快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

○研究発表① 計画的な学校環境衛生活動の実施と事後措置について

—学校薬剤師との連携を中心に—

山口県立山口高等学校 養護教諭 久保 明子先生

学校環境衛生活動の推進に係わる行内体制は、「学校保健計画」及び「環境教育推進計画」の中に位置づけており、学校薬剤師と連携をとって取り組んでいるが、学校全体として、学校環境衛生に関する意識は十分とは言えない。学校環境衛生活動を推進していく為、教職員、生徒、学校薬剤師、養護教諭で環境衛生検査の役割分担表を作成し、実践している。

○研究発表② 名古屋市における水泳プールの水質管理について

名古屋市学校薬剤師会 会長 山口 一丸先生

プール水中の不純物を取り除くには主に硫酸バンド（硫酸アルミニウム）を用いて、水中の不純物を凝結・凝集させた後、ろ過処理を行っているが、近年、循環ろ過器が老朽化してきており、硫酸バンドを用いた方法では十分なるろ過処理が出来なくなってきた為、全処理に使う凝集剤を新しいタイプの凝集剤（カチオン系合成高分子凝集剤）を使用することにより改善することができた。

○研究発表③ 学校薬剤師との連携による学校環境衛生の取り組み

三重県伊賀市立島ヶ原中学校 教頭 藤山 秀公先生

学校施設内の環境衛生について気になるところや困っていること等の調査を行い学校保健委員会と生徒会健康委員会が連携し、学校薬剤師の指導により問題解決の取り組みを行っている。重曹と木炭を使用し、異臭がある場所を清掃し、その結果、70%位の生徒が改善したと感じている。

第7課題 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育

安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

○研究発表① 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育「あなたの心のブレーキは何ですか？」

～生徒の実態を踏まえた校内活動や関係機関との連携～

静岡県立静岡商業高等学校 養護教諭 杉山 祐美先生

静岡県は、薬物検挙者指数が、全国第10位と多く、人口で比較すると更に上位になると言われているそうです。そこで、全校生徒に対して「たばこ、酒、薬物に対する意識調査」を実施し、その調査結果は、薬物乱用防止教室の講師に伝え、講座実施後にも同調査を行い、その変化を見えています。また、薬物乱用防止標語コンテストを実施しています。参考になるところが多い発表でした。

○研究発表② 中学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

三つの柱を中心とした取組から

三重県伊勢市立倉田山中学校 教諭 多田 ちか先生

「知識・理解」「セルフエスティーム」「ライフスキル」の三つの柱を設定しています。

1年生は喫煙、2年生は飲酒、3年生は薬物乱用のテーマにし、各教科・委員会・部活動で取り組んでいます。例えば、英語科では、アメリカのタバコのパッケージの注意書きから文化の違いを考えたり、外国語指導助手が誘い役となって日本とアメリカの断り方の違いについて考えたそうです。各教科での取り組みは面白いと思いました。

○研究発表③ 健康教育に位置づく薬物乱用防止教育の進め方

ー可部小学校健康教育の実践からー

広島市立可部小学校 主幹教諭 津島 正司先生

校内だけではなく、児童の薬物乱用防止教育の学習の様子や学校保健委員会の報告を「学校だより」「ほけんだより」で、地域に発信していた。

○指導助言者（コーディネーター）

意思決定・行動選択の力を高め、安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋先生

保健授業と特別活動の違いなどを述べられ、3人の発表をうまくまとめられました。

○講義 「ダメ。ゼッタイ。」で終わらせない薬物乱用防止教育

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

薬物依存研究部 心理社会研究室室長 嶋根 卓也先生

ご自身も「ダメ。ゼッタイ。教室」で講義をやられているそうで

1.なぜだめなのか？

2.誰の問題なのか？

3.困ったらどうすればいいか？

を、お話しされているそうです。

参考になるスライドや進行方法を教えていただきました。

精神保健研究所のホームページ <http://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/index.html> に参考資料があるので、ご利用下さいとの事でした。山口県にぜひ来ていただき講義を受けたいと思いました。